

上級救命講習

1 到達目標	<p>1 心肺蘇生法及び大出血時の止血法が、救急車が現場到着するのに要する時間程度できる。</p> <p>2 自動体外式除細動器（AED）について理解し、正しく使用できる。</p> <p>3 異物除去法及び大出血時の止血法を理解できる。</p> <p>4 傷病者管理法、副子固定法、熱傷の手当、搬送法を習得する。</p>
2 標準的な実施要領	<p>1 講習について、実習を主体とする。</p> <p>2 1クラスの受講者数の標準は、30名程度とする。</p> <p>3 訓練用資機材一式に対して受講者は5名以内とすることが望ましい。</p> <p>4 指導者1名に対して受講者は10名以内とすることが望ましい。</p>

項 目		細 目	時 間 (分)	
応急手当の重要性		応急手当の目的・必要性（心停止の予防等を含む）等	15	
救命に必要な応急手当 （成人、小児、乳児、新生児に対する方法）	心肺蘇生法	基本的心肺蘇生法（実技）	反応の確認、通報	285
			胸骨圧迫要領	
			気道確保要領	
			口対口人工呼吸法	
			シナリオに対応した心肺蘇生法	
	AEDの使用法	AEDの使用法（ビデオ等）		
		指導者による使用法の呈示		
		AEDの実技要領		
	異物除去法	異物除去要領		
	効果確認	心肺蘇生法の効果確認		
止血法		直接圧迫止血法	60	
心肺蘇生法に関する知識の確認（筆記試験）		知識の確認		
心肺蘇生法に関する実技の評価（実技試験）		シナリオを使用した実技の評価		
その他の応急手当	傷病者管理法	保温法	120	
		体位管理（回復体位とショック時の対応）		
	外傷の手当要領	包帯法		
		副子固定法		
		熱傷の手当		
		熱中症への対応（予防を含む）		

		その他の手当（用手による頸椎保護、すり傷、切り傷、気管支喘息、痙攣、低血糖、失神、アナフラキシー、歯の損傷、毒物、溺水への対応等）	
	搬送法	搬送の方法（徒手搬送、毛布を使った搬送法、複数名で搬送する方法）	
		担架搬送（担架搬送の基本事項）	
		応急担架作成法	
合 計 時 間			480